

もやもや病



子ども達に「勇気、夢として笑顔」を

もやもや病とは

頭の血管が細くなり、脳の**血液循環が悪くなる**病気です。日本人に多く、脳血管造影検査で**頭の血管がタバコの煙のようにもやもや**と写しだされることからこの名がつけました。

ウィリス動脈輪閉塞症と呼ばれる事もあります。

【症状】

小児のもやもや病は、多くは、脳の血流が不足する脳梗塞型として発症します。激しく泣いたとき、熱いものを食べるときにフーフーするなどの過呼吸の状態では症状が出やすくなります。



手足の脱力、
言葉がうまく出ない、
痙攣などの症状がよくみられます。



【診断】

もやもや病の診断には、脳の血管造影検査や CT・MRI などが行われます。



もやもや病には、きまった診断基準があり、これまでの経過・症状・画像検査などから診断が確定されます。



【治療】

治療は、手術です。

一般的には、頭皮の血流を脳に供給する血管吻合術（血管同士をつないで血液の流れを回復させる手術）が行われています。この手術にはいくつかの方法があり、よりよい手術法を選択します。

また、痙攣には、投薬治療が行われる事もあります。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

<脳神経外科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2017.4.改訂